

株式会社 日立製作所 理事
システム&サービスビジネス統括本部 CSO

松原康範

女優・歌手

ナタリー・エモンズ

Create
New
Values

対談

その土地の人や食にも 感動する「日本遺産」の旅

松原 ナタリーさんのご活躍は、いつもテレビで拝見しています。

ナタリー ありがとうございます。
松原 ナタリーさんは、毎週日曜日の朝にTBSテレビで放映されている「じよんのび日本遺産」という番組に出演されていますね。あの番組は、文化庁が認定する「日本遺産」を巡るものですが、私は毎週楽しみにしています。

ナタリー それは、嬉しいですね。世界遺産に登録されている場所は、とても有名な所ですが、日本遺産は日本の人もまだ知らないような場所が多いですね。でも、歴史や伝統があって、どこも素敵な所ばかりです。そういう所を、少しでも多くの人に知ってもらえればと願っています。

松原 日本遺産の紹介は、たいへん意義のある仕事だと思います。実は、私たち日立のお客さま向け情報誌『はいたつく』でも、日本遺産を紹介する企画を行っているんですよ。ナタリーさんは、今年5月に文化庁の日本遺産大使にも就任されましたね。番組でも毎回いろいろな所に伝わる日本の伝統や歴史などを楽しく紹介されています。ナタリーさん

が共感を持って、各地の文化に接しているの、その楽しさがよく伝わってきます。

ナタリー そう言っていたら嬉しくなると嬉しいです。私自身は、特に楽しさを演出しているわけではないのですが、日本各地の伝統や文化に触れて、ほんとうに楽しんでます。それが画面から自然に伝わるんですね。

松原 ナタリーさんは、すでにたくさん日本遺産を訪れていると思いますが、その中で一番印象に残っているところは、どちらですか。

ナタリー 鳥根県の津和野を訪ねた時に、「石見神楽」という伝統的な踊りに参加させてもらいました。あれは特別な思い出です。

松原 拝見しました。よくテレビ番組ではレポーター役のタレントの人が、地元行事に飛び入りで、少しだけ参加したりしますが、石見神楽の時はかなりしっかりと練習されて、舞台でも長い時間演じられていましたね。一生懸命取り組んでいる様子が伝わってきました。

ナタリー 実は、私もちょっとだけ出させてもらえるのだらうと思っていました。ところが、実際に練習に参加したら、ちょっとではなくて、かなり長時間舞台に立つことが分か

日本で女優や歌手などの芸能活動を行うとともに、

文化庁が認定する「日本遺産」を広く世界に発信する

「日本遺産大使」としても活躍中のナタリー・エモンズさん。

スポンジのような吸収力で、日本語や日本の生活文化を吸収し理解を深めているナタリーさんに、

日本でのコミュニケーションや日本の歴史や伝統の良さについて、新鮮な視点で語っていただきました。

心から認め合えば
文化の違いを超えた
絆が生まれる

構成・文：清田勝哉 写真：宮澤佳久

撮影協力：東京都港区・八芳園

りました。地元の皆さんは、長い期間にわたって練習を続けて、舞台上立つわけでしょう。そこに私が入っていったら大丈夫？ と思いました。ですから、地元の人々の演技のジャマにならないよう、自分もちゃんとやらなくてはと思い、練習も本番も一生懸命にやりました。扇子を使った舞いに、難しいところがあったので、旅館に帰ってから真剣に練習をしました。

言葉や文化が違ってても
気持ちは通じ合う

松原 ナタリーさんは、まず大阪のUSJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)の舞台に出演するために来日されたと聞きました。最初の頃は日本でのコミュニケーションの取り方に苦労されませんでしたか。アメリカでは、わりとストレートにものを言いますが、日本では遠まわしな表現も多いですからね。言葉と本当に伝えたいことが違っているようなことも、日本では多いと思います。

ナタリー 最初に大阪に住んだのが良かったと思います。大阪では、割合はつきりと言うでしょう？ 私、日本に来る前に日本の人はシャイとか、おとなしいとか聞いていました。

とが日本の人に伝わらないと、ものすごく礼儀に反した事になってしまふでしょう。最初の頃は、そのところを気にかけていました。それで、テレビのレポートなどでも控えめにしていたら、周りの人が「もう少し話したほうがいいよ」と言ってくれました。その後、「日本遺産」の番組で栃木県の足利市に行った時に、相田みつをさんの「にんげんだもの」という言葉を教えてもらって、あ、間違えてもいいんだと、すごく安心できました。外国人だから少しくらい間違っても大丈夫と、周りの日本人たちはみんな思ってくれています。それなら、自分らしさを見せたほうがいいんだと、考えるようになりましたね。でも、日本の文化も人も、とても尊敬しているのので、その気持ちが伝わるように気をつけています。

松原 そういうふうに相手に対する尊敬の気持ちを持ちながら、積極的にコミュニケーションを取る努力が必要だということですね。最初は言葉が通じなくても、積極的にコミュニケーションを取りながら、だんだんと理解し合っていくことが一番重要なことでしょう。

ナタリー 言葉や文化が違っていても、どこの国の人も同じなんだと気が



【松原康範(まつばら・やすのり)】
1984年 株式会社 日立製作所入社、
2005年 営業企画本部 企画部 担当部長、2009年 情報・通信グループ 金融システム営業統括本部 ビジネス企画本部長、2012年 営業統括本部 営業企画本部長、2016年 ICT事業統括本部 経営戦略統括本部長、2017年 システム&サービスビジネス統括本部 経営戦略統括本部長、2018年 理事 システム&サービスビジネス統括本部CSO

でも、大阪では、電車の中で知らない人にも声を掛けたりします。ですから、「日本人の人、ちつともシャイじゃないですね」と思いました。それでも大阪に来たばかりの頃は、日本語が全然できなかったたので、周りの人たちとコミュニケーションがなかなか取れませんでした。そこで自分の考えていることを少しでもきちんと伝えようと思い、言葉で表現できないところはジェスチャーを交えて、コミュニケーションを取りました。

松原 そういう積極性が大切ですね。いま日立は世界中で事業を展開していて、従業員は約30万人に上り

づいた体験がありました。大阪に来たばかりの頃、電車に乗ったら、私の左隣に座っていた男の人が居眠りをしていて、空いたほうの席に私が移ったんです。そうしたら、居眠りをしていて空席になった所に、どーんと横倒しに……。まるでコメディの映画を観ているようで、ついつい笑ってしまつて……。そうしたらそれを見ていた周りの人も笑いをこらえていたようで、私が笑ったらみんなふき出してしまつたんです(笑)。外国人だからこう、日本人だからこう、という概念がなくなり、日本にいても一人じゃなくて、みんな

と一緒にいるんだと感ぜられるようになってきました。

松原 それは、とても大事な気づきですね。言葉や文化の違いがあっても、人と人は共感できるし、そういう共感を基盤にしてコミュニケーションが成り立っていくのだと思います。

【ナタリー・エモンズ】
アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴ出身。2010～2013年、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンでシンガー、ダンサー、MCとして活動、大人気のショー「ユニバーサル・レインボー・サーカス」ではリングマスター役(主役)を演じ、数々の賞を受賞。その後、ジブリ映画のテーマ曲をカバーした動画がYahoo! JAPANに掲載されるなど話題となる。NHKワールドの歌番組「We Love Japanese Songs」では司会も務めた。現在、毎週日曜放映の「じよんのび日本遺産」(TBS)ほか、多数のテレビCM、TV番組に出演。シンガーソングライターとしても活動中。



に話せなかったりすることがあります。積極性を持つていかないとけないとは思いますが、とても難しいと感じています。

ナタリー 私は学生の頃から、グループの中で積極的にコミュニケーションを取れない人がいると気になる性格でした。それで、あまり話をしていない人がいると、その人の所に行つて、話しかけてみるんです。アメリカにいた時に友だちになつた日本人の留学生は、まだあまり英語をたくさん話せなかった様子でしたので、もっと一緒に話をしたいと思つて話しかけました。友だちをつくるにしても、コミュニケーションがとても大事ですよ。

松原 そういう思いやりを持って接してもらえると、多少言葉が分からなくても、話に加わつていきやすいですね。ナタリーさんが、日本語のコミュニケーションで気をつけている点は、何かありますか。

ナタリー 私はけっこう物をはっきりと言うほうなのですが、先ほど松原さんも言われたように、日本ではあまりストレートに言つても、失礼になる場合がありますね。アメリカなどでは、冗談を交えてみんながストレートに言い合います。日本で同じようにした場合、冗談だといふこ

ます。

アーティストとしての活動では、ナタリーさんはこの4月にコンサートを開かれましたね。私も行きました。

ナタリー えー、それは嬉しいですね。ありがとうございます。コンサートに、どのくらいお客さんに来てもらえるか分からなかったたので、開催するまでは不安で、すごく緊張してました。でも、会場に来てくれた人たちは、みんな笑顔でサポートしてくれて、家族みたいに感じて安心しました。

松原 日本でそういういろいろな芸能活動をしてみても、どんな印象を持たれましたか。

ナタリー 日本では、お互いを認め合いますね。お客さんの前で自分の歌を歌つたり、演技したりする時に、それぞれのアーティストは自分のパフォーマンスに自信を持つことが大切ですね。同じステージに立つ人たちが、お互いを認め合うというのは、それぞれ自信が持てますから、とても良いことだと思います。最初に日本で働いたUSJでも、海外から大勢の出演者が来ていました。その人たちも日本の人たちから「上手ですね」とか「きれいな」と褒めてもらつたことで、自信を持つことができた。アメリカでは、どちらかと

いうと、出演者同士は競争相手という雰囲気があります。ですから、自分より上手な人がいたら、ちょっと敬遠したりします。日本では、みんなが一緒になって一つのステージを成功させることが大事と考えます。そこが、とても良いと感じました。

日本とアメリカを結ぶ
架け橋に

松原 お話を伺っていると、好奇心を持っていろいろなことに挑戦されているようなので、日本に来てホームシックにかかったりしなかったのでしょうか。

ナタリー そうですね。最初から平気でした。大阪に初めて来た時は、日本の文化とか食とか、見る物がす

べて新鮮で、わーすごい、経験しなかつたと思うっていて、毎日が忙しかった。部屋の中で寂しがっている暇がなかったです(笑)。私は、子どもの頃から冒険がしたかったんです。子どもの頃は、将来、アクションアドベンチャー映画で有名なインディアナ・ジョーンズか女優になりたいと思っていました。いろいろな所に旅行をして、各地の物語をいっぱい知って、冒険で経験したことを新しい物語にして、創作活動を通じて表現するような人になりたいと思っていました。



んあります。アメリカでも、日本には行ったことがないけど、「日本、カッコいい」と憧れを持っている人はたくさんいます。日本の人は、そこに気づいて、自信を持ってほしいですね。

「お疲れさま」は
お互いを認め合う挨拶

松原 ナタリーさんに、たいへん日本のことを褒めていただきましたが、日本の文化では褒められても、すぐに「そうですか、嬉しいです」という反応はしないんですね。「いや、それほどでもない」と、「一応謙遜してみせます。その辺りも、海外の人からみると分かりにくいかもしれませんが、

ナタリー でも日本では、仕事が終わると「お疲れさま」と声を掛け合うでしょう。それは素晴らしい習慣です。私は、とても尊敬しています。最初に、撮影の現場などで、出演者だけでなくそこにいるスタッフ全員が「お疲れさま」と声を掛け合うのを見た時、その意味がよく分かりませんでした。でも、よく考えてみると、声を掛け合うのは、そこにいた人全員が、その仕事に参加して、それで一日の仕事がうまくいったというのを認め合う行為なんです。お互いに認め合うこと、それは先ほどの全員で一つのステージを成功させることを大切にする、日本の素晴らしい考え方が背景にあるように思います。ですから、いまでは私もス

いろいろな国に行ってみたいのでは？

ナタリー 日本のいろいろな所に行くことができたんですが、まだ日本について知らないことや理解できていないこともたくさんあります。ですから、世界に行く前に、まず日本のこととしっかりと理解して、日本の社会や文化の中に入っていきたいです。

松原 それは嬉しいですね。ナタリーさんが日本のことをよく理解してくれることで、結果としてアメリカなど海外にも日本の本物の姿が伝わっていくと思います。ですから、日本を理解して、日本の社会に参加したいという気持ちは、たいへんありがたいと思います。日本とアメリカの間をつなぐという役割を果たしてもらえます。

ナタリー 日本とアメリカの間をつなぐというのは、私の夢です。

松原 ナタリーさんから、日本の人へのメッセージは何かありますか。
ナタリー 日本には、良い所、素晴らしい所がいろいろあります。たとえば、神社やお寺などは、日本の人は子どもの頃から触れていて、当たり前前に感じているかもしれません。が、細かい所までは、よく見ていなかったりするのはないかと思いません。よく見てみると素晴らしい点がたくさんあります。そういう点に、

スタッフ全員に「お疲れさま」と声を掛けるようにしています。

松原 それは良いことですね。みんなに喜ばれるでしょう。私たち日立でも、いま挨拶運動をしています。これは、「おはよう」「ありがとう」「失礼します」「すみません」といった基本的な挨拶を、全員でしっかりとしようという取り組みです。口に出して挨拶することは、ナタリーさんがおっしゃったように、そこにいる人たちがお互いを認め合う行為なんです。お互いに認め合うことは、仕事を一緒に成し遂げていく上でたいへん重要です。

最後になりましたが、日立に対して、こういうことを実現してほしいというようなご注文はありますか。
ナタリー 私は、人間にとって大切なことは、コミュニケーションとコネクションだと考えています。いまは、SNSやいろいろなアプリを使って、遠くにいる人とも気軽に会話ができる、絆を結ぶことができるようになりました。もっとITなどのテクノロジーが発展して、言葉だけではなくて、心そのものが伝えられるようになる、さらに深い結びつきが生まれると思います。それから、環境問題にも関心があります。温室効果ガスやプラスチック廃棄物



もう一度目を向けてもらおうと、新鮮な発見がいろいろあるのではないかなと思います。ただ、東京など都会の生活では、みんな忙しく動いていまして。そういう中で、ちょっと立ち止まって、周りを見てほしいと思います。

松原 おっしゃる通りですね。日ごろ触れていて、よく知っていると、思っていることでも、海外の人に説明しようとする、自分でもよく理解していなかったり、ということが往々にしてあります。自分たちの文化や伝統を見直すことで「再発見」があるでしょうね。

ナタリー 私が、日本のことを素晴らしいと思うと、日本の人はどこにそんな良さがあるんだ、どこが好きなのかと不思議がります。でも海外から見ると魅力的なところがたくさんあります。その課題は、いま世界中でみんなが関心を持って取り組んでいるでしょう。

松原 おっしゃる通りです。日本でもSDGsをはじめとしたサステナビリティに対する取り組みがたいへん重視されるようになってきました。日立では、ITやシステム構築などの技術を生かして、再生エネルギー利用や省エネルギーを実現するマネジメントシステムをつくるなど、環境分野でもいろいろな取り組みを進めています。まだ、解決するまで難しい課題もありますが、ナタリーさんの期待に応えられるよう、私たちも努力します。まだ誰もできないことに、チャレンジしていくことが大切ですね。本日は、いろいろと新鮮な視点のお話を伺うことができ、参考になりました。お忙しい中、ありがとうございました。

■本誌ではダイジェスト版を掲載しました。完全版を「Executive Foresight Online」に掲載しています。
https://www.foresight.ext.hitachi.co.jp/_ct/17285960

